



過日、テレビで「好きなものだけ食べたい」という番組が放送され、ご覧になった方もいらつしやると思いますが。驚いたのは、スポーツ少年団に入っている小学六年の子の食生活に対する親の発言でした。

練習を終わり帰ってくるとその子の為の好きなジュースが冷蔵庫に用意され、夕食も家族とは別メニューの豚丼(冷凍食品)です。それでも、その子は豚丼から嫌いなタマネギを徹底的に取り除き「好きな物だけ食べる」のです。記者が母親に疑問を投げかけると、母親は「自然に好き嫌いが無くなるまで時間を掛けて見守りたい」というのです。子どもの自主性を尊重するという聞きえのよい言葉で、子どもの基本的なしつけや教育を放棄しているように思ふのです。

きちんとした食事を取るといふ生活の基本は、子どもが年齢を追っていけば自然に身につくものでしょうか。実際はその逆のように思えます。自我が発達してから「身体のためにこれは残してはいけない」「朝食をきちんと食べなさい」といっても子どもは聞かないばかりか、周りの大人に反発さえします。

食べ物や味つけが、国によって違うように、日本でもその土地、土地でそれぞれ独自の食文化をもっていました。小さいころから家庭で食べた味がその人の食文化の基本となり、味覚を育てているという専門家の話を聞いたことがあります。成長とともに自然に変わることは無いということです。

今、戦後の食糧難の時代と大きく変わり、二十四時間営業のファーストフード店やコンビニが当たり前の時代になりました。「お金」さえ出せば、何でもいつでも食べられる豊かな時代です。それだけに、意識して自らをコントロールしなれば、欲望に負けてしまう恐ろしい時代になったともいえます。ましてや弱者である子どもは、自己コントロールが難しいのです。親が意識して食事を与えていかないと「好きな物を好きな時に食べる」という自分勝手な生活になってしまいます。その影響は、徐々に子どもの身体に現れ「成人病」になることさえあるそうです。



一方、核家族化が進む中、親の役割が親業が上手に伝えられなくなったり、祖父母の援助がなされなくなり若い親たちが悩み、時には親業放棄(育児放棄・虐待)となっている現状も少なくないようです。その上、働く親の環境も厳しくなっており、子育ての問題解決を個々の家庭の努力だけに求めているも、解決の方向にはなかなか向かないように思います。もう一度、私たち大人が、子どもを育てるとはどういうことか。年寄りと共に生活する唯一の動物である人間の子育てはどうあるべきか、地域全体で考え、できることから行動していかねばならない時がきたように思います。

歴史の中で子育てに大きな力を発揮してきたお年寄りの知恵、お隣さんとの協力をもう一度見直して、未来を担う子どもたちのために行動していきたいものです。



環境にやさしい買物運動 推進協力店を募集します

グリーン購入とは、その商品が本当に必要なかどうか、そしてできるだけ環境に負荷のかからないものかを考えて行う買物のことです。

これが浸透すると、環境に配慮した商品のマーケットが拡大し、結果として持続可能な循環型社会をつくる一助となります。この運動は、いま全国的に展開されています。

県では、身近なところでグリーン購入ができるよう「環境にやさしい買物運動推進協力店」を募集しています。

小売店業を営む皆さん、「環境にやさしい買物運動推進協力店」に参加してませんか。

「環境にやさしい」商品とは
◇再生素材を使用したもの(紙・プラスチック類など)
◇詰替式で容器を再利用できるもの

◇包装の簡易なもの など
「環境にやさしい買物運動推進協力店」とは

環境にやさしい商品の販売、ごみの減量化、リサイクルなどに積極的に取り組むお店で、「環境にやさしい買物運動推進協力店」のステッカーが貼られています。

その他 要綱や申込書は、ホームページからもダウンロードできます。
問合せ 循環型社会推進課

055(223)1503
FAX 055(223)1507